

平成26年度

高等学校における

多様な学習成果の評価手法に関する調査研究

研究成果報告書

愛知県教育委員会

平成27年3月

はじめに

本研究は、平成 25 年 5 月に文部科学省が公募した「高等学校等の新たな教育改革に向けた調査研究」における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」事業に、愛知県教育委員会が申し込み採択されたことを受けて、昨年度の途中から始めた事業です。本事業は、「中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校部会」の審議内容を踏まえて実施がなされており、これからの国の教育施策にも関わる重要なものと考えています。

研究の目的は、高校生が身に付けるべき幅広い能力の育成に向けた学習活動において、各段階ごとに到達目標を明確化したり、当該目標に照らした評価指標を設定したりすることで、評価の信頼性・妥当性を高めることにあります。具体的には、ルーブリックと呼ばれる評価基準表を活用したパフォーマンス評価やポートフォリオ評価を、各学校における実践を通して検証していくものです。

また、本研究においては、産業界、研究機関等が求める専門的職業人としての基盤を確実に身に付けさせるために、育成すべき資質や能力を適正に評価する手法を研究することも含まれています。

研究を推進する上では、専門家からの助言が不可欠であることから、教育学、教科教育学、キャリア教育等を専門とする先生方からなる評価手法検討会議を設定し、研究上の課題についてさまざまな協議を行っています。今年度は、前年度に研究校を委嘱した、愛知県立惟信高等学校と愛知県立一宮南高等学校に加え、愛知県立日進西高等学校、愛知県立吉良高等学校、愛知県立蒲郡高等学校にも新たに研究校を委嘱し、外国語（英語）科、理科、国語科、地理歴史科、公民科、数学科の 6 教科で研究を進めています。

昨年度の取組については、国からのフォローアップの中で、「愛知県教育委員会、総合教育センターと連携しての評価手法の開発」を評価していただいたほか、「それぞれの学校の実態に合った課題やルーブリックの開発、指導の改善」を御提言いただいています。それを踏まえて、今年度は、各学校における校内研究委員会をより充実していただけるような環境づくりに配慮をしてみました。

5 月 12 日（月）に文部科学省で行われた情報交換会では、愛知県教育委員会が事例発表の機会をいただき、昨年度の 2 校の取組を発表させていただきました。各学校の先生が直接発表を行い、評価・推進委員の先生方から助言をいただけたことは、研究を進める上で大変意義のあることでした。

今年度から研究を始めた学校では、前年度の成果を参考に、実に精力的に研究を進めていただいています。1 月からは 5 校で順次研究発表会を開催していますが、県内の高等学校だけでなく、遠方の高等学校、近隣の中学校、自治体からもたくさんの方の参加がありました。また、報道機関の取材により、研究の内容が、県内外に大きく報道されました。

御指導をいただいた先生方と、忙しい学校の業務の中で、熱心に成果を上げていただいた研究校の先生方には、深く御礼を申し上げます。

この研究成果報告書は、本研究の概要について記述した後、評価手法検討会議の座長を務める名古屋大学大学院教育発達科学研究科の柴田好章准教授に各学校における取組に対する提言を、愛知教育大学教育学部学校教育講座の高綱睦美講師に本研究を進める上でのキャリア教育からみたポイントを、分かりやすく記述していただきました。

また、5 校での取組については、「実践編」で具体的に紹介をさせていただいております。

この研究成果報告書が、各学校における評価の改善に少しでも役立つならば幸いです。

愛知県総合教育センター
所長 杉浦 慶一郎

目 次

はじめに

第Ⅰ部 研究の概要	1
第Ⅱ部 理論編	13
第Ⅲ部 実践編	21
愛知県立惟信高等学校の取組（外国語(英語)科)	21
愛知県立一宮南高等学校の取組（理科)	49
愛知県立日進西高等学校の取組（国語科)	75
愛知県立吉良高等学校の取組(地理歴史科・公民科)	89
愛知県立蒲郡高等学校の取組（数学科)	103

おわりに